

さいたま市立大原中学校 学校だより



新しき光



さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397 FAX 048-835-1357

WEB <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

第9号

校訓「歴史を拓く」 学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」

令和8年1月8日発行

「学び」の連鎖

校長 越智 宏明

2026年が幕を開けました！

新年明けましておめでとうございます。本年も大原中生による、地域を巻き込んだ「一因」としての活躍にご期待ください。

先月の学校だよりでも述べましたが、昨年度から仲間のため地域のために活躍した生徒を「大原スーパースター賞」として表彰しています。1学期末までに表彰した生徒は全部で4名でしたが、2学期末にはその4倍となる実に16名の生徒を表彰しました。更に終業式終了後、「あの子どもこんなことをしていました」とか、「僕がスーパースター賞をもらえたのは〇〇君の真似をしたからです」などという申し出が相次ぎ、3学期の始業式には更に7名の生徒を表彰することになりました。これでスーパースター賞受賞者は、実に27名に！驚くべき勢いで、大原中の「スーパースター」が増殖していることが分かります。

こうした、「スーパースター」が増えれば増えるほど、学校内に、「善いことを善い」、「正しいことを正しい」と認め合える環境が醸成されていくと、私は確信しています。もちろん中には、「こういうことをしたら、『スーパースター賞』をもらえますか？」と尋ねてくる生徒もいます。そうした生徒にも、私は「スーパースター賞」を授与するつもりです。大切なのは、「『こういうことをしたら人から認められる』ということを実行してみる」ことなのです。だから最初は「賞ねらい」でも構いません。人の善い行いを見て自分も真似をし、そして認められる喜びを知る…、このことが連鎖的に広がっていったとき、大原中学校は誰にとっても居心地の良い、本当の意味で「地域に輝く学校」になれるのではないのでしょうか？

学校が「学び」の場であることは、今更言うまでもないことですが、この「学ぶ」という言葉の語源を調べると、古語の「真似（まね）ぶ」にあるという説が有力です。つまり、「学ぶ」という行為は単なる知識の習得だけではなく、先人や周囲の人々の行動を「真似」することで、自身の能力を高めるというのが本来の意味だということです。そう考えると、大原中学校ではまさに、「学び」の連鎖が発生しているといえると言えます。それも爆発的な勢いで！誰かの善い行いを他の誰かが真似し、それがまた別の誰かに真似されるというリレーションが生まれ、広がっていくことで「善い行い」の価値を生徒一人ひとりが確実に学び取っていくのだと思います。だから私は、そのために、100人でも200人でも表彰していくつもりです。

そしてこの「学び」の連鎖は、嬉しいことに、既に地域をも巻き込んでいます。これまで「スーパースター賞」に輝いた27名の内6名は、地域の方から情報や推薦をいただいた生徒たちです。生徒たちにとっても地域の方たちに見守られ、認めていただけたということは、これからの人生において必ずや、大きな自信となることでしょう。そして将来、生徒たちがこの地域を主体的に運営していく「一因」となってくれることを願ってやみません。

校長室の入り口には、歴代の「スーパースター」たちがその実績とともに、レリーフになって紹介されています。保護者や地域の方たちも学校にお立ち寄りの際は、是非生徒たちの「学び」がどのように連鎖していったのかご覧いただければと思います。

大原中学校は、今年で開校73年目。更に地域の「一因」となるべく新しい挑戦を続けて参ります。引き続き温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



2学期の終業式でなんと16名の生徒が「大原スーパースター賞」に輝きました。「学び」の連鎖が更に広がることを期待しています。